

唐と結んで 朝鮮を統一した新羅



朝鮮半島では、中国の影響を受けつつ国が形成され、新羅が統一を果たす。日本を含む古代東アジアの秩序が確立する。

唐の力を借りて朝鮮を統一、日本の影響力を排除

朝鮮半島では、前2世紀に衛氏朝鮮が興ったが、前108年に前漢の武帝に滅ぼされ、朝鮮四郡として漢帝国に組み込まれることとなった。

朝鮮四郡は後漢末期に楽浪・帯方郡に再編されたが、北部を根拠とする高句麗が313年に楽浪郡を滅ぼした。

半島南部は韓族の馬韓、辰韓、弁韓にまとまったのち、帯方郡を滅ぼし、4世紀半ばにいたって百濟、新羅が興ると、高句麗を含めた三国の勢力が拮抗する。中国の南北朝時代、これら三国は、それぞれ北朝、南朝の冊封を受けていたが、隋・唐(P.50、51参照)によって中華帝国が再建されると、情勢が変化する。

高句麗を脅威とした隋は、3次にわたって遠征軍を送るが、すべて撃退された。しかし、唐が新羅と結ぶと、半島内の勢力関係の均衡が崩れ、百濟、高句麗が相次いで新羅に滅ぼされた。676年、新羅は唐の影響力も排除し、朝鮮半島に初めての統一国家を建てた。

この間、日本(倭)は、再興を企てる百濟の遺臣を援助して半島に軍を派遣したが、白村江の戦いで大敗した。

新羅は、改めて唐に朝貢してその冊封を受けつつ、中央集権国家を建設する。また、仏教を保護し、仏教文化が繁栄した。新羅の支配体制は8世紀半ばごろから崩れはじめ、10世紀に高麗によって滅ぼされる。

一方、中国東北部から朝鮮半島北部には高句麗の遺民と靺鞨人による渤海が興り、唐の制度を取り入れたり8〜9世紀に栄えた。

統一前の朝鮮半島

百濟、新羅、高句麗といった朝鮮半島に起こった国々は、中華帝国の権威を借りながら7世紀まで抗争を続ける。

高句麗古墳群
平壤(ピョンヤン)の周辺には多くの古墳があり、墓室内には壁画が描かれている。世界遺産にも登録された。

?~935年。4世紀中ごろから勢力を伸ばし、6世紀には朝鮮半島の最大勢力となる。

半島南部の小国家群。弁韓、任那(にんな)ともよばれる。562年に新羅に併合される。

高句麗

?~668年。313年、中国の北東支配の拠点である楽浪郡を滅ぼして台頭した。

百濟

?~660年。早くから中国の南朝と通じ、日本とも同盟関係を保っていた。

渤海

698~926年。大祚榮(だいそえい)が靺鞨(まっかつ)人と高句麗遺民を統率して建国。

新羅

唐と結んで百濟、高句麗を滅ぼし、朝鮮半島初の統一国家を樹立。唐の冊封を受ける。

石窟庵、仏国寺
新羅の宰相、金大城(きんだいじょう)が建てた。建築、仏像ともに朝鮮仏教芸術の至宝。

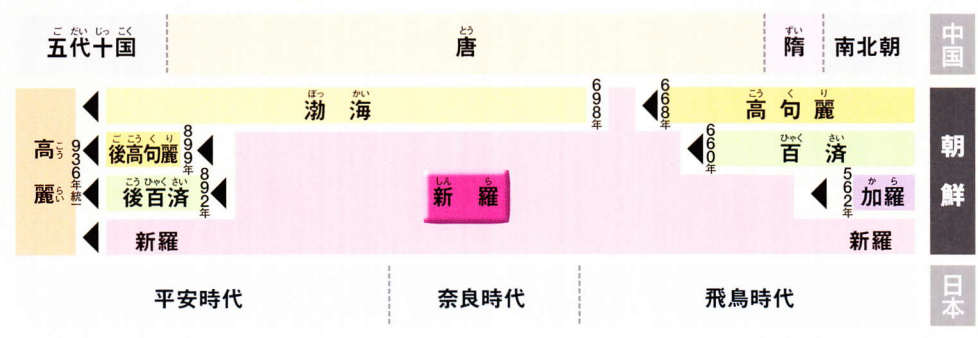
8世紀の朝鮮半島

貴族の抗争や農民の反乱などにより、新羅の支配体制が揺らぎはじめる。

663年

白村江の戦い
唐・新羅連合軍が日本・百濟連合軍に大勝した海戦。百濟復興はかなわなかった。

新羅時代の朝鮮と中国・日本



Key Word 広開土王
[374~412年]

高句麗の第19代王。好太王(こうたいおう)ともいう。百濟、新羅をたびたび攻撃するとともに、西方の燕(えん)などとも激しく争って領土を拡大、高句麗最盛期の基礎を築いた。また、しばしば朝鮮半島に軍を送った日本(倭)も退けた。その活躍のようすは、息子である長寿王(ちようじゅおう)が414年に建立した、広開土王碑(中国吉林省集安県にある)に記されている。